

VI 小学部運営計画

1 学部目標

- (1) 自分から興味や関心をもち、自分で考えようとする態度や基礎的知識及び技能を身に付け、最後までやり遂げようとする児童の育成を図る。
- (2) 相手の立場を理解し、友達と協力して学校生活を楽しく送ろうとする児童の育成を図る。
- (3) 病気や障害による困難さを理解し、より豊かな生活を目指す児童の育成を図る。

【目指す児童像】

- ・ 自分から進んで学び、めあてに向かって努力する子ども
- ・ 友達のことを考え、仲良く助け合う子ども
- ・ 生活に工夫を見いだそうとするたくましい子ども

2 指導方針

- (1) 児童一人一人の生命に対する畏敬の精神に基づき、生活・学習の場でお互いに助け合い、励まし合い、学び合う集団作りを目指し、個々の特性に応じた心身の発達を促す指導の充実を図る。
- (2) 児童一人一人の実態把握を的確に行い、個に応じた効果的な指導ができるよう努める。
- (3) 校内各部署、並びにこども病院、家庭との連携を密にし、共通理解を図りながらより良い環境の下で充実した指導を行う。

3 本年度の重点

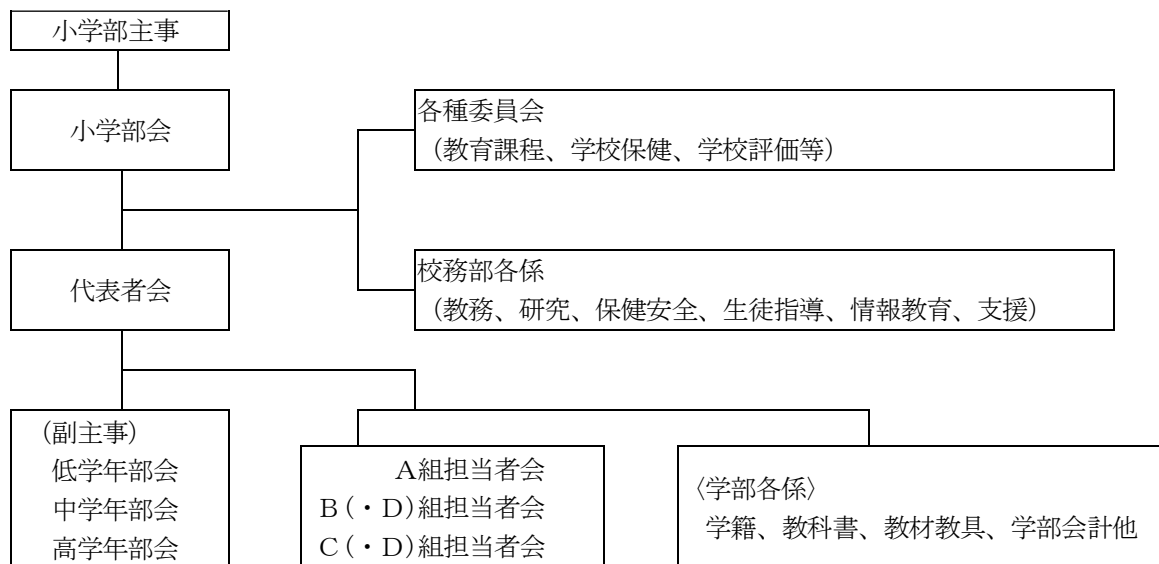
- (1) 児童の不安や心配などを把握して、温かい人間関係に努め、明るく過ごせるようにする。
- (2) 基本的生活習慣の確立と望ましい生活態度を育てる。
- (3) 学習指導要領の内容に沿った年間指導計画を整え、教育活動の充実を図る。
- (4) 児童の教育的ニーズを把握し、転出後の生活をイメージした個に応じた指導の工夫、必要に応じた移行支援を適切に行う。
- (5) 学部内研修の設定や、教師同士の学び合いを推進し、教師の専門性の向上に努める。

4 指導内容及び要点

- (1) 指導内容は次の四つの教育課程を編成する。
I 類型：小学校に準ずる教育課程 II 類型：下学年適用の教育課程
III 類型：知的障害特別支援学校の教育課程 IV 類型：自立活動を主とした教育課程
- (2) 学習指導においては、学級単位で行うことを原則とするが、児童の実態により効果的と考えられる場合は、個別指導や学級・学年の枠を越えたグループ編成による学習を設定して指導に当たる。
- (3) 個別指導・合同学習の設定及び実施に関しては、定期的に話し合いをもち、連絡調整を行う。
- (4) B・C・D組については、病状により、主治医から登校制限が出されている場合には、体調に配慮しながら病棟で授業を実施する。

5 組織及び運営

学校運営機構の各部各係との連携を図りながら、児童の学習・生活指導及び学部の運営に関することについて検討し、実施する。



- (1) 小学部会は毎月一回を定例とし、必要に応じて随時開く。学部全体に関わることを協議し、各児童のケースや教育計画などについての話し合い、または研修を行う。
- (2) 代表者会は学部会の協議事項を検討するとともに、学年部間や各A B C D組間の情報交換及び連絡調整を図る。学部主事、副主事、各A B C D組代表者または各学年部代表者等で構成する。
- (3) 各学年部会・各組担当者会はそれぞれの学級運営や行事予定・指導上の問題等について定期的に話し合う。
- (4) 学部内の各組織は上記を基本とするが、必要に応じて新たに設定する。

6 学 年 目 標 及 び 指 導 方 針

学年	学 年 目 標	指 導 方 針
1 年	・興味をもって学習に取り組む子ども ・身近な自然に親しみ、生命を大切にする子ども ・みんなと仲よく、助け合う子ども ・自分の身体について知ろうとする子ども	・健康で明るい生活を送るために、基本的な学習習慣を身に付ける態度を養う。 ・教師や友達との関わり合いを深め、集団参加の基盤を培う。
2 年	・興味をもって進んで学習に取り組む子ども ・身近な自然に親しみ、生命を大切にする子ども ・みんなと仲よく、助け合う子ども ・進んで自分の身体について知ろうとする子ども	・健康で明るい生活を送るとともに、基本的な学習習慣を身に付ける態度を養う。 ・友達同士の関わり合いを深め、積極的な集団参加を促す。
3 年	・自分で考え、学習に取り組む子ども ・自分でやろうと決めたことは最後までやり抜く子ども ・相手のことを思い、協力して生活する子ども ・自分の身体を守りながら安全を考え生活を送る子ども	・自分でできることに気付き、自分の力で実行する態度を養う。 ・仲間と協力し合ったり、励まし合ったりする場面を通して、意欲的な集団生活を促す。
4 年	・自分でよく考え、学習する子ども ・自分の力で、最後までものごとをやり抜く子ども ・相手のことを思いやり、協力して生活する子ども ・自分の身体を守りながら安全に生活を送る子ども	・自分でできることに気付き、最後までやり通そうとする態度を養う。 ・仲間と協力し合ったり、励まし合ったりする場面を通して、積極的な集団生活を促す。
5 年	・自分で計画を立て、自分の考えで学習する子ども ・高学年の自覚をもち、活動に参加しようとする子ども ・素直な心で生活し、ものごとに感謝する子ども ・病気や障害を理解し自分や周囲の人を大事に思う子ども	・病気や障害に対する正しい理解を促し、自ら学ぼうとする態度や生活習慣を形成する。 ・話し合い活動を充実させ、積極的な集団活動を促す。
6 年	・将来を見通しながら、自分から進んで学習する子ども ・最高学年の自覚と思いやりをもち、活動する子ども ・素直な心で生活し、感謝の心を表そうとする子ども ・病気や障害を理解し自分も周囲の人も大事に思う子ども	・病気や障害に対する正しい理解を促し、自ら学ぶ態度や生活習慣を形成する。 ・話し合い活動を充実させ、積極的な集団活動を促す。

7 小 学 部 行 事 計 画

(1) 集会行事計画

① 主な内容とねらい

行 事 名	場 所	ね ら い
1 年生を迎える会 (1 年生在籍時) 4 月 2 5 日 (金)	3 P R 小 C 教室 各病棟	・上級生が新入生を温かく迎え、共に遊んだり学習したりする仲間であることを確かめる。 ・新入生が 1 年間の学校生活に見通しをもち、学校に慣れ親しむ気持ちをもつ。
6 年生を送る会 (6 年生在籍時) 2 月 2 5 日 (水)	3 P R 小 C 教室 各病棟	・6 年生がもうすぐ卒業であることを自覚し、これまでの振り返るとともに、今後の生活に意欲をもつ。 ・在校生が 6 年生に対する感謝と祝福の気持ちをもつ。
進級を祝う会 3 月 1 7 日 (火)	3 P R 小 C 教室 各病棟	・自分たちの 1 年間の頑張りを振り返り、新しい学年への意欲をもつ。(6 年生の在籍がない場合)
小学部集会 (ピーチタイム)	3 P R 小 C 教室 各病棟	・前月の目標を振り返り、今月の目標を確認し、自分なりのめあてをもったり気を付けようと意識したりする。 ・ゲストティーチャーからの話を聞き、見聞を広げる。
小学部児童集会 (メロンタイム)	3 P R 小 C 教室 各病棟	・上学年児童が主体となって企画・運営し、各学級や学年で活動する。 ・異年齢で共に集団で活動する経験を積む。

② 実施予定と担当

	月 日	時 間	集会・行事名	担 当
一 学 期	4 月 25 日(金)	3 校時	1 年生を迎える会	(4・)5・6 年生
	5 月 7 日(水)	2 校時	ピーチタイム (5 月)	学部主事他
	6 月 2 日(月)	3 校時	ピーチタイム (6 月)	学部主事他
	7 月 1 日(火)	2 校時	ピーチタイム (7 月)	学部主事他
	7 月 17 日(木)	3 校時	メロンタイム (7 月)	(4・)5・6 年生
	9 月 1 日(月)	3 校時	ピーチタイム (8・9 月)	学部主事他
	10 月 1 日(水)	2 校時	ピーチタイム (10 月)	学部主事他 養護教諭
二 学 期	11 月 4 日(火)	2 校時	ピーチタイム (11 月)	学部主事他
	12 月 1 日(月)	3 校時	ピーチタイム (12 月)	学部主事他 養護教諭
	12 月 17 日(水)	3 校時	メロンタイム	(4・)5・6 年生
	1 月 8 日(木)	2 校時	ピーチタイム (1 月)	学部主事他
	2 月 2 日(月)	3 校時	ピーチタイム (2 月)	学部主事他
	2 月 25 日(水)	3 校時	6 年生を送る会	(3・)4・5 年生
	3 月 2 日(月)	2 校時	ピーチタイム (3 月)	学部主事他
	3 月 17 日(火)	3 校時	進級を祝う会 (6 年生を送る会がない場合)	

- ・登校している児童はできるだけ参加できるよう工夫する。(前月にリハ変更願を提出する)
- ・ベッドサイドの児童については、リアルタイムのオンライン参加だけに限定するのではなく、録画対応等、病状や実態に合わせて指導場面を変更するなど柔軟に対応する。
- ・ピーチタイムについては生活目標・保健目標の継続的な指導の機会とする。
- ・児童の実態や教育的ニーズなどを優先し、ふさわしいと思われる内容を企画・運営する。

(2) 校外学習(修学旅行を含む)・リモート学習・出前教室計画

No	期 日	学年等	目的地等(参考)	主 な ね ら い
1	5 / 3 0 (金)	小 6 A B	(修学旅行)	・校外における経験を通して自然や文化について見聞を広げ、日常の学習をより深く発展させることができるようにする。 ・規則正しい集団行動を通して集団参加の意欲を高め、連帯感をもって望ましい体験を積む。
2	6 / 5 (木)	小 1・2 A	仙台うみの杜水族館 昼食あり	・進んで友達や教師と接したり安全に活動したりすることができるようにする。 ・実践を通して公共の施設を利用する際のマナーを身に付ける。
3	6 / 1 9 (木)	小 4 A	葛岡工場 昼食あり	・実際に働いている人々の説明を聞き、廃棄物の処理だけにとどまらず、再利用など資源に着目した問題もあることに気付く。
4	6 / 2 6 (木)	小 B 下学年	R7 旭山動物園(リモート) (R8 アクアテラス)	・生き物の生態や食事の様子などを見る中で、生命に畏敬の念をもったり、自然との違いに気付いたりすることができる。 ・動物の専門家からの説明を聞く機会をもつことで、動物との関わり方や飼育の実際を間近に感じることができる。

5	9 / 1 1 (木)	小B 上学年	イオン中山店 昼食あり	・公共の場の利用のマナーや買い物の手順を理解し、金銭等を用いてお店で買い物をすることができ - る。 ・店員と買い物に必要なやり取りをすることができ - る。 ・買い物を通して、人と関わることのよさに気付き、手順に沿って、買い物をしようとする。
6	9 / 1 8 (木)	小3 A	愛子生協 昼食あり	・地域に見られる販売の仕事について見学を行うこ - とで、販売の仕方や工夫を知り、消費者の多様な - 願いとの関連に気付く。 ・施設の具体的な説明や見学を通して、地域住民の - 社会生活のために、働いている人々や工夫されて - いる仕組みについて知る。
7	1 1 / 1 3 (木)	小3 A	消防署 か 警察署	・火災から人々の安全を守る働きについて、施設見 - 学や実際に働いている人の話を聞くことで、緊急 - 時に備えている体制や設備の配置に気付く。 ・地域という視点から、警察や地域住民との連携に - 気付き、安全を守ることへの人々の努力や働きな - どについて、考えることができる態度を育てる。
8	1 1 / 1 9 (水)	小5 A	NHK仙台放送局 昼食あり	・情報産業で働く人々の様子を見聞きし、情報収集 - や発信の工夫・努力を理解する。 ・発信される情報と自分達の生活を関連付け、国民 - 生活における影響や、送り手と受け手の立場を多 - 角的に考えようとする態度を育てる。
9	1 1 / 2 7 (木)	小2 A	広瀬図書館	・公共施設の利用を通じて、社会にはみんなで使う - 物があることや、それらを利用するためのルール - やマナー、それらを利用するために働いている - 人々の存在に気付く。 ・公共物や施設の見学等を通じて、みんなで使う物 - や場所があることを理解し、大切に思う気持ちや - 正しく利用する態度を育てる。
オンライン学習 ・ 出前授業				
①	7 / 3 (木)	小4 A C	水道局出前教室	・浄水の仕組みや様子など、上下水について実際に - 関わる方から説明を受ける機会を通して、主体的 - に考えようとする態度を育てる。 ・社会の一員として、疑問をもったり今後の生活に - 生かそうしたりする機会をもつ。
②	8 / 2 8 (木)	小4 A C	仙台市天文台 (オンライン授業)	・星の動きや明るさについて、説明を聞いたり理解 - しようとしたりする態度を育てる。 ・天文について専門者の存在を知り、自然全般に興 - 味をもつ機会となるよう、事前事後にも学びの視 - 野を広げ、関心を向けられる態度を育てる。 ・オンライン学習の場でのルールやマナーを知り、 - 集中して学習ができる。

	R 8 年度 9 / ()	小 1・2AC	旭山動物園 (オンライン見学)	・学年や児童の実態に合わせた内容を吟味し、生き物の生態や食事の様子などを見る中で、生命に畏敬の念をもったり、自然との違いに気付いたりすることができる。 ・動物の専門家からの説明を聞く機会をもつことで、実際の動物との関わり方や飼育の実際を間近に感じることができる。
③	9 / 2 5 (木)	小 6 AC	仙台市天文台 (オンライン授業)	・太陽と月の形や動きについての知識を深めるとともに、天文全体に興味関心をもつ。 ・星に関する既習の内容にも照らし合わせるなど、理解を深める機会とする。 ・オンライン学習の場のルールやマナーを守りながら、相手に敬意をもち学習を深めようとする態度を育てる。
④	1 1 / 1 0 (月)	小 5 AC	トヨタ工場 (オンライン 工場見学)	・自動車の製造行程や協力関係、優れた技術の様子を知り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考えることができる。 ・専門家に対し敬意をもった態度で、学ぼうとしたり感謝の気持ちを伝えようとしたりする。

8 小学部 道德教育全体計画

教育関係法規	学校教育目標	実態・願い
・日本国憲法 ・教育基本法 ・学習指導要領 ・県教育方針 等	病気や障害による困難の改善に取り組み、夢や希望に向かって心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。 ○ 進んで学び、最後までやり抜く児童生徒 ○ 思いやりの心を持ち、助け合う児童生徒 ○ 健やかで、明るく生活する児童生徒	○ 児童の実態 ○ 保護者の願い ○ 病院職員の願い ○ 教職員の願い ○ 現代社会の要請

社会的要請	道德教育の重点目標
*国際化・情報化・少子高齢化への対応 *いじめ・不登校・問題行動等への対応 *確かな学力の定着 *共生社会の実現	○学校生活の決まりを守ることや日常の人間関係などを通して、道徳的判断力・実践力を培う。 ○授業の充実を図ることにより感動する心や豊かな心情を育み、思いやりのある子どもを育成する。
	道德科の指導方針
	○児童が、生活や生き方について考えを深められるよう支援し、様々な体験を通して、内面に根ざした道徳性を養う。

低学年の重点目標	中学年の重点目標	高学年の重点目標
○うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。 ○友達と仲よくし、助け合うこと。 ○約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	○自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。こと。 ○友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。 ○働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。	○安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。 ○誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。 ○生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
Ⅲ・Ⅳ 類型	○よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。 ○気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	

各教科・領域・総合的な学習の時間・特別活動における関連			
【国語】 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高める。 【社会】 我が国を愛し、人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。 【生活】 多様な人々と触れ合いながら、活動や体験を行う。 【算数】 友達と考えを伝え合うことで学び合う。 【理科】 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。	【音楽】 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育む。 【図工】 自分のよさや可能性を見だし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 【体育】 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進する。 【家庭】 家庭生活を大切にすることの心情を育む。 【外国語】 外国語の背景にある文化に対する理解を深める。	【外国語活動】 コミュニケーション能力を培うとともに、異文化を理解しようとする態度を育てる。 【特別活動】 異年齢集団による交流を重視しながら、協働することや貢献したりすることの喜びを得られるようにする。 【総合的な学習の時間】 ○よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。 ○探求的な学習の過程で、他者と協働して課題を解決しようとする活動や体験活動、社会教育施設との連携・見学行う。	【日常生活の指導】 身近な人と接することに関わる学習活動を通して、挨拶や話などをする態度や技能を育てる。 【生活単元学習】 身近な自然や社会に親しむ態度を養う。 【遊びの指導】 主体的に遊ぶ中で、自ら他者と関わり、相手を信頼したり思いやりたりする態度を養う。 【自立活動】 課題にしっかりと取り組む態度を養う。

家庭・こども病院・地域との連携	学校環境の充実
○学校だより「拓桃わかば」 ○連絡帳 ○保健だより ○オンライン講座・出前授業 ○ゲストティーチャー・スクールカウンセラー ○OB・OG ○入所支援会議 ○校外学習先 ○ケース会議・カンファレンス ○学校保健委員会 ○学校評議委員会 ○生活指導会議 ○居住地校	道徳実践の充実を促す学校環境の整備に努める。 ○生活環境：安全で清潔感あふれる落ち着いた環境。 ○言語環境：相手の気持ちを思いやる優しく正しい言葉遣い。 ○人的環境：互いの人権を尊重し合い、学び合い、育ち合う豊かな人的環境。

9 小学部 学校安全教育計画

項目			月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3
安 全 学 習 教	安 全 学 習	算 数		・定規、コンパスの保管の仕方										
		生 活		・はさみ、ステー プラーの使い方	・移植ごて、スコ ップの使い方		・カッター、ナイ フの使い方	・野外観察時の安 全		・移植ごて、ス コップの使い方	・室内遊びの安全	・カッター、ナイ フの使い方		
		理 科		・野外観察時の交通 安全 ・アルコールランプ、 虫めがね、移植ごての 使い方	・天気の変化(5 年) ・カバーガラス、ス ライドガラスの使い 方	・スコップ、ナイフ の使い方	・野外観察の安全 ・試験管、ビー カーの使い方	・台風と天気の変 化(5年) ・地震による土地 の変化(6年)	・太陽観察時の注意 ・鏡、凸レンズ、ガ ラス器具の使い方	・ポリ袋の使い方 ・フラスコ、ガラ ス管の使い方	・バーナー、蒸発 皿の使い方 ・塩酸、水酸化ナ トリウムの取扱い 方	・観察中の安全	・針金、プラス チックの使い方	
		社 会		・くらしを守る (3・4年)	・私たちの国土(台 風)(5年)	・宮城県沖地震								・東日本大震災
		図 工		・はさみ、カッター ナイフ、絵の具、接着剤 の安全な使い方	・コンパスの安全な 使い方	・のこぎり、小刀、 金づち、くぎ抜き、 くぎの使い方	・木づち、電動の こ、ニスの使い方		・彫刻刀の管理と使 い方	・ラッカー、シン ナーの取扱い方	・竹ひご、細木の 使い方	・小刀の管理と使 い方		・共同作品作製時 の安全
		家 庭		・熱湯の安全な取扱い 方 ・ガスコンロの使い方 ・食品の取扱い方	・針、はさみの使い 方 ・調理用具、器具の 安全な使い方	・実習時の安全な服 装の選び方 ・アイロンの使い方	・洗濯機の使い方 ・快適な住まい方	・ミシンの使い方		・調理用具・器具 の安全な使い方 ・暖房器具の使い 方	・住宅用洗剤の使 い方	・食品の日付表示	・油の安全な取扱 い方	
		体 育		・用具の使い方 ・体育館の安全確認		・集団行動、行動時の安全				・けがの防止(保 健)	・ボール運動時の 安全			・固定施設利用時 の安全
		遊びの指導		はさみ・のり・絵の具・カッター等の安全な使い方 移植ごて・鎌などの道具の安全な使い方 校外学習に向けて 交通安全・館内での安全な行動										
		生活単元												
安 全 指 導	学 級 指 導	低学年		・登校の仕方の確認 ・運動時の約束 ・車椅子やエレベ ーターの使い方のきまり	・災害時の正しい行 動 ・校庭や屋上の使い 方のきまり	・梅雨時の安全 ・校外学習時の安全 ・交通機関利用時の 安全	・夏休みのくらし	・校外学習時の安 全	・廊下の安全な移動 の仕方 ・災害時の行動	・安全な集団行動 ・校外学習時の安 全	・冬休みのくらし ・暖房機周辺の安 全			・1年間の反省 ・東日本大震災
		中学年		・安全な登下校 ・運動時の約束 ・車椅子やエレベ ーターの使い方のきまり	・災害時の正しい行動 ・校庭や屋上の使い 方のきまり	・梅雨時の安全 ・校外学習時の安全 ・交通機関利用時の 安全	・夏休みのくらし	・校外学習時の安 全	・廊下の安全な移動 の仕方 ・災害時の行動	・安全な集団行動 ・校外学習時の安 全	・冬休みのくらし ・暖房機周辺の安 全		・交通ルール	・1年間の反省 ・東日本大震災
		高学年		・身の回りの犯罪 ・運動時の約束 ・車椅子やエレベ ーターの使い方のきまり	・災害時の正しい行動 ・校庭や屋上の使い 方のきまり ・校外学習時の安全	・梅雨時の安全 ・校外学習時の安全 ・交通機関利用時の 安全	・夏休みのくらし	・校外学習時の安 全	・廊下の安全な移動 の仕方 ・災害時の行動	・安全な集団行動	・冬休みのくらし ・暖房機周辺の安 全		・交通ルールと標 識	・1年間の反省 ・東日本大震災
	学 校 指 導	主な学校 行事等		・始業式・入学式 ・授業参観・面談 ・健康診断	・防災訓練事前研修 ・校外学習スタート ・小学部修学旅行	・総合防災訓練 ・開校記念日	・授業参観・面談	・防犯避難訓練	・終業式・始業式 ・学習発表会	・火災避難訓練	・授業参観・面談		・授業参観・面談	・防災訓練 ・卒業式・修了式
		安全管理		・登下校の安全確認 ・安全点検計画の確認 ・避難経路の確認	・防災設備の点検と確 認 ・教室など校舎内の点 検	・防災設備の整備	・校舎内外の危険 箇所の点検・整備	・防災用具の再点 検・整備 ・避難経路の確認	・体育館や教室など 校舎内の点検・整備	・教材や遊具など の点検・整備	・学校内の危険箇 所の点検・整備	・防災用具の再点 検・整備	・教材や遊具など の点検・整備	・1年間の学校環境 ・安全点検の評価

10 小学部 志教育全体計画

学校教育目標	
児童・学校の実態	病気や障害による困難の改善に取り組み、夢や希望に向かって心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。 〈めざす児童生徒像〉 ○進んで学び、最後までやり抜く児童生徒 ○思いやりの心を持ち、助け合う児童生徒 ○健やかで、明るく生活する児童生徒
教師の願い	「志教育」の目標
一人一人の子供が自己有用感をもって、輝いてほしい。	一人一人の子供が自己や他者を大切に、夢や希望をもって、これからの時代を生き抜く力を育成する。
保護者の願い	
- 退院の日まで元気に頑張ってもらいたい。 - 楽しく学校生活を送ってもらいたい。 - 学力や生きる力が向上してほしい。	

重点指導事項		
人と「かかわる」	よりよい生き方を「もとめる」	社会での役割を「はたす」
- 自分の気持ちや考えを相手に伝える力や相手のことを考える力を養う。 - 友達と協力して学校生活を楽しく送ろうとする態度を育成する。	- 目標に向けて進んで取り組む態度を育成し、達成感をもつことで自信を深める。 - 他学年、中学部との活動、体験学習等を通し、興味・関心を広げ、夢や憧れの気持ちを育成する。	- 集団の中で、互いの役割や役割分担の大切さを理解する。 - 自分の役割を認識し責任を果たすことで人の役に立つことの喜びを体得する。

各教育活動における取組の観点		各学年の取組内容	
各教科	- 基礎・基本的な知識及び技能の定着を図る。 - 主体的に学習に取り組む態度を養う。 - 多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。	低学年	- 合同朝の会でのスピーチ、感想発表 - ピーチタイム・メロンタイム - 係活動 - 校外学習 - 居住地校との交流及び共同学習 - 学習発表 - 自立活動 - 生活科「野菜を育てよう」 - 特別な教科 道徳科
特別な教科 道徳	- 思いやりの心の伸長と自他を尊重する態度を育成する。 - 道徳的な判断力と心情、実践意欲と態度を育てる。 - 目標に向かって努力する態度を育成する。	中学年	- ピーチタイム・メロンタイム - 係活動 委員会活動 - 校外学習 - 居住地校との交流 - 学習発表 - 自立活動 - 総合的な学習の時間 - A L T (外国語活動) - 特別な教科 道徳科
総合的な学習の時間	- 環境や福祉、その他実社会や実生活の興味・関心を高めるための探求課題を設定する。 - 探求的な学習に主体的・協働的に取り組ませる。 - 情報については、PCやネットの基本的な使い方やルールなどを学び、学習場面で活用することができるよう身に付けさせる。	高学年	- ピーチタイム・メロンタイム - 係活動 委員会活動 児童生徒会活動 - 校外学習 修学旅行 - 居住地校との交流 - 学習発表 - 自立活動 - 総合的な学習の時間 - A L T (外国語) - 特別な教科 道徳科 - 特別活動
外国語活動	- 言語や文化について体験的に理解を深める。 - 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う。		
特別活動	- 自分の役割を認識し、自主的に活動していく態度を育成する。 - 集団や社会の形成者として、仲間と協力しながら活動する仕方を身に付けさせる。		
自立活動	- 児童自身が、学習上、生活上の困難を自分にあった改善・克服の仕方を身に付け、対処できるような指導を目指す。 「健康状態の維持」について、自己理解を深め、学びに向かう力を高めるように努める。		

家庭との連携	他校や企業等との連携
- 学校だより「拓桃わかば」 - 教育相談・連絡帳 - 保護者懇談会（学年・学級） - 個別面談	- 居住地校との交流 - 校外学習（見学・体験） - オンライン授業・出前教室 - 携帯・スマホ安全教室

